

■新任会長就任ご挨拶



この度、大阪府弓道連盟会長に就任いたしました砂口勝紀でございます。

私はもとより浅学非才でございます。先人が築いてこられた大阪府弓道連盟を引き継いで行くことに身の引き締まる思いでございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。この2年間は、新型コロナウイルスの発生により、社会全体が行動等の制約を受けて個人や団体においても活動を自粛せざるを得ない状況にありました。府連行事も影響を受け止むを得ず中止が続きましてし、弓道場の閉鎖等で十分な稽古が出来ないことでありました。やっと、新型コロナウイルスの感染防止に関する規制が緩められ、今年度から感染対策をとりながらゆっくりと元に戻ればと感じているところでございます。また、今期から年度区分が変更になり、皆様にはお忙しい思いをしていただきましてありがとうございました。

各種府連行事を通して会員相互の交流や親睦が技量の向上、ひいては大阪府連の発展に繋がっていくものと存じております。加えて弓道の持つ魅力を少しでも発信する事が出来ればと考えております。今後とも皆様方のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。終わりに、中野英夫前会長には14年の長きに亘り大阪府連にご尽力いただきましたことに衷心より敬意と感謝を申し上げます。



砂口勝紀

■中野英夫会長退任ご挨拶



桜の花も散り始め青葉若葉の芽吹く季節となりました。

令和4年大阪府弓道連盟新年度の出発にあたり、大阪府弓道連盟会長を退任致しました。

府連会員並びに関係者の皆様には幾多のご支援、ご厚情、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。まことにありがとうございました。

平成19年11月会長に就任してからの7期14年間は私にとっては、充実した弓道生活を過ごさせてくれました。数多くの「人々」との出会い…、数多くの「出来事」との遭遇…、そして数多くの「失敗」も重ねてきました!!

今はその全てが懐かしい「思い出」となりました。これからは、もう少し余裕をもった道場での稽古を楽しみにしております。新しい大阪府弓道連盟の躍進を心から祈っております。



中野英夫

■全国勤労者大会選手決定射会

3月5日、万博公園弓道場に於いて「全国勤労者大会選手決定射会」が開催されました。この度は5チームの参加がありました。コロナの影響を受け企業内に於いて対外競技を休止せざるを得なくなったチームがあり例年に比べて少ないチーム構成となりました。大会出場企業は次の通りとなりました。

パナソニック

NTT大阪



実業団チームの競射の様子

■大阪府連春季審査

3月13日大阪府連春季審査は、以下のような徹底したコロナ感染防止対策マニュアルに依って実施されました。

- ・審査会場の人数制限
- ・開会式・矢渡・演武の廃止
- ・受審者集合時間の分散

- ・健康チェックシートの提出
- ・学科審査は課題レポート提出
- ・実技終了後は直ちに退館
- ・審査結果は後日発表

特に五段審査が地連審査に入る時は「他府県の審査員も参加」と言う形はコロナ禍の審査の形となりました。人数制限の関係で会場は次の通りとなりました。「無指定・初段・弐段・参段」は八尾市立総合体育館弓道場、「四段～五段」は堺初芝体育館弓道場で行われました。

他府県からの先生方は次の通りでした。「滋賀県弓道連盟会長」範士八段中野秀也先生「歌山県弓道連盟会長」教士七段田中康雄先生

審査の結果は次の通りでした。

☆無指定

初段 5名 1級 9名 2級 1名

☆初段 26名 ☆弐段 19名

☆参段 16名

井上善文(八尾)	上田泰郎(吹田)
休場佳世子(堺)	土屋隆一郎(高槻)
武田めぐみ(万博)	東 佳代(高槻)
足立祐子(茨木)	藤井 淳(朝日)
末岡 努(堺)	弓田五十次(岸和田)
鷹橋多恵(茨木)	泉 恵理子(朝日)
源 眞由美(豊中)	角田善孝(豊中)
豊田秀雄(高津)	上田隆司(堺)

☆四段 6名

和泉原 匠(豊中)	北濃幹人(朝日)
今井正澄(大阪大)	阪口隆宏(吹田)
松崎悟司(豊中)	中筋啓輔(枚方)

☆五段 6名

吉本景子(朝日)	田中隆夫(交野)
神前共栄(豊中)	宇野哲司(堺)
今西啓子(八尾)	奥田弘美(高槻)



八尾会場の受付の様子



八尾の審査の様子



初芝の審査員



初芝の審査の様子

■ 高津宮的祭神事

2月23日、高津宮的祭神事が行われました。「高津宮」の「的祭神事」は近的で行われ、的は盾形の板の的を射割ります。

いわれは『日本書紀』に基づいております。

『日本書紀』によりますと仁徳天皇の12年7月3日、高麗国が鉄の盾、鉄の的を献上してまいりました。表向きは貢物という事になってはいますが、裏には「日本がいかにかの武の国と言っても、この鉄の盾・鉄の的を射抜く者はあるまい…」という気持ちがあるのは見え見えです。そこで翌月10日高麗の使者を供応する日に群臣・百僚を集めてこの鉄の盾・鉄の的を射させたというお話が出ております。

「諸々の人、的を射通すを得ず。唯、^{いくほのおみ} 的 臣の

^{おやたてひと} 祖盾人の宿禰のみ、^{すくね} 鉄の的を射て通しつ。時に

高麗の^{まろうどら} 客等みてその射る事の^{すく} 勝工れたるを

^{かしこまり} 畏て、共に立ちて^{みかどおがみ} 拝朝す」この故事から

仁徳天皇ゆかりの『高津宮』の「的祭神事」では盾形の的を射抜いて国威を護った盾人の宿禰の偉業を偲ぶことになっています。

的臣盾人の宿禰にちなんでこの神事が行われることは、神事に先立って仁徳天皇に捧げられる祝詞にも謳われていますので、この神事の由来が良く判ります。従って神事の初めに放たれる矢は宮司自らが弓を執りおこないます。

また、高津宮は昔から梅の花で有名であり、今も梅林があります。難波津の高津と呼ばれて『万葉集』にも詠まれた地でもあります。

「名所」とはもともと「などころ」といわれて歌枕の地名を指しています。その意味で、高津は万葉の昔から続く「名所」と言えるのではないのでしょうか？



矢を射る宮司



盾形の的